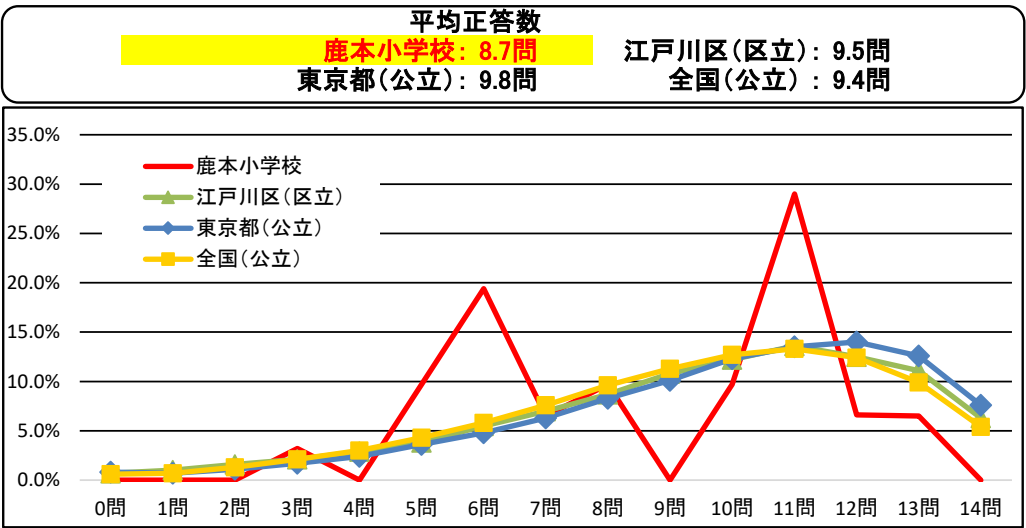


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 鹿本小学校

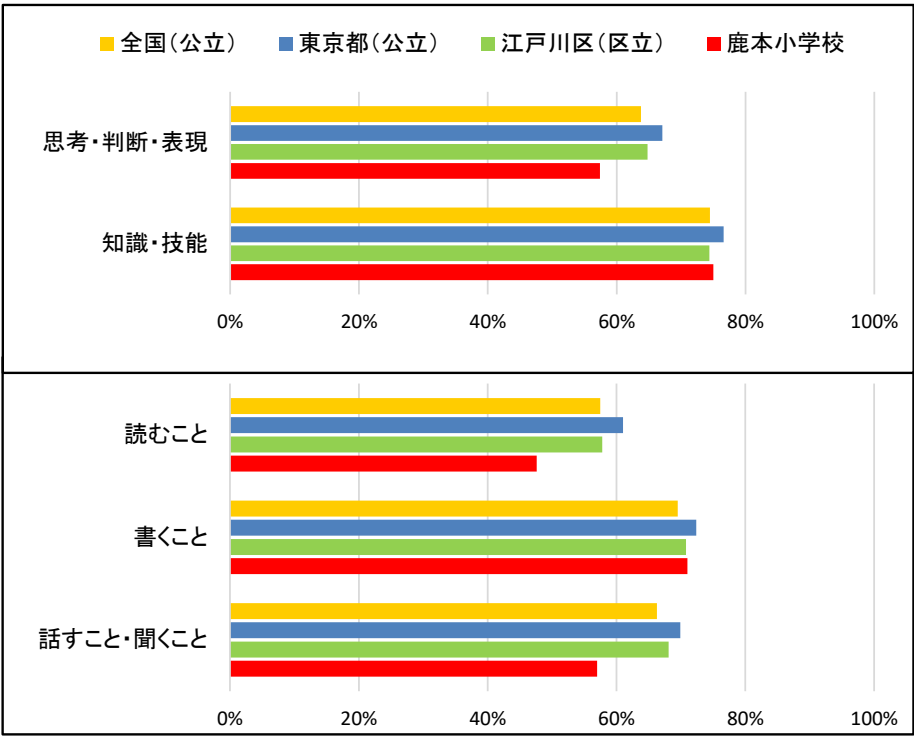
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

鹿本小学校	62%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-8.0

「領域別」の結果

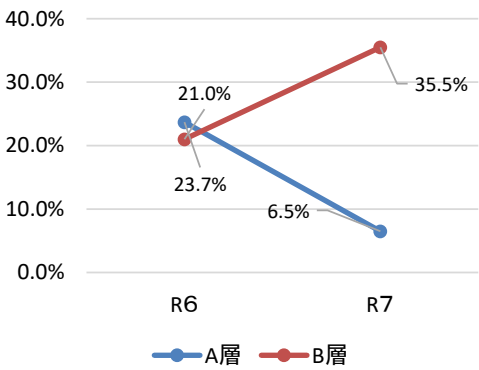


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

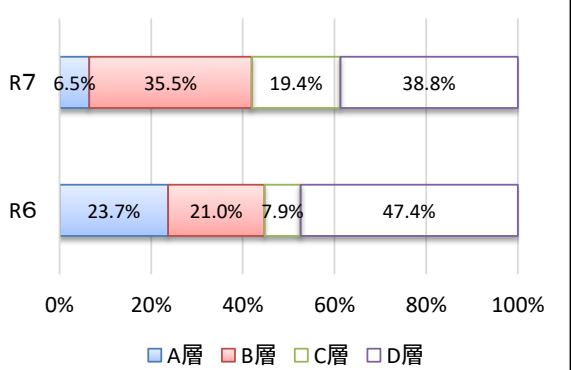
国 語	上位 ←		→ 下位	
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
鹿本小学校	6.5%	35.5%	19.4%	38.8%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

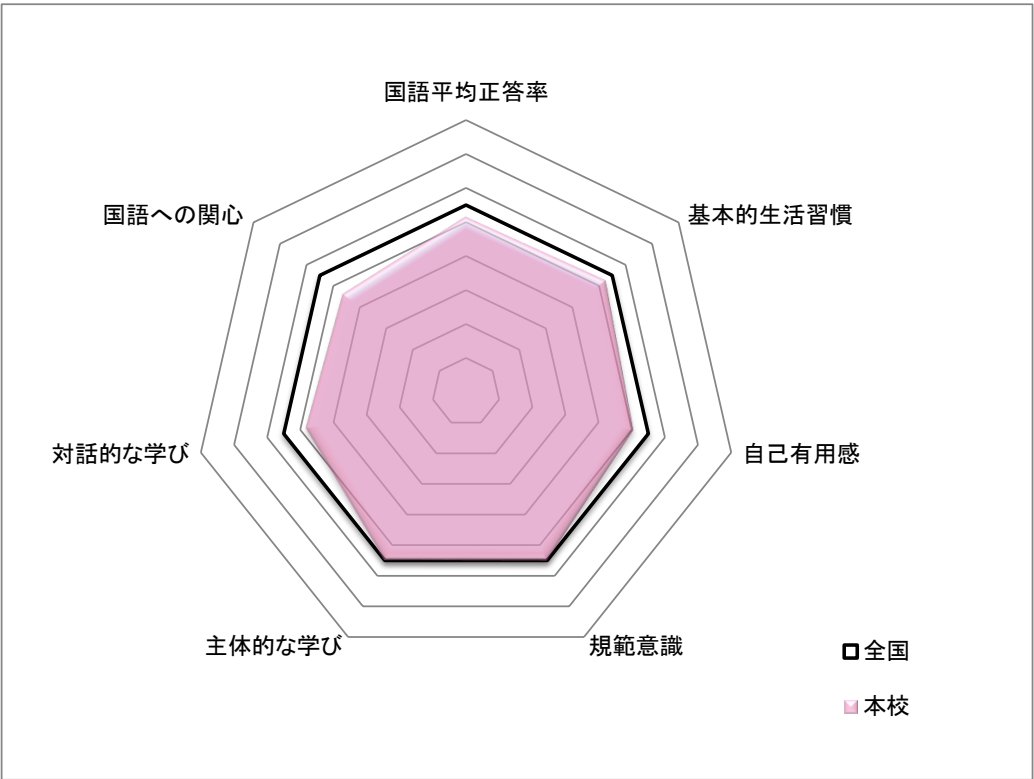
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることへの意識が低い。また、努力すべきことを決めて取り組む子が少ないため、対話的な学びの平均が全国よりも少ない状態になっている。国語に対する苦手意識をもつ児童が多い。問題から抜き出す子とはできても、自分の考えをとると記述問題が書けない児童が多い。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会等で学力について報告。
区の学力調査の結果をもとに成果と課題をあげる。
夏の個人面談等で、結果を返却し解説をしながら保護者に渡す。
長期休業では、苦手なところの復習を中心に行い、家庭でも取り組む旨を伝える。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
(結果)昨年度のA層と今年度のを比較すると、A層は17.2%減少している。
B層の方は、14.5%上昇している。
(取り組み)タブレットを活用し、ドリルパークで繰り返し学習をする。
朝学習やマスターバンビで短時間集中して行う習慣を付ける。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
児童が単元に興味・関心をもてるような導入の工夫。
実態から、体験をしている児童が少ないため考えようとなっても想起しづらい児童が多い。そこで出前授業や、体験型プログラムを入れ他教科と関連させながら学習を行う。
研究では、読みの三様態を研究しわかりやすい授業展開や教師の発問について研究している。
国語の学習に興味・感心をもってもらえるよう、読書に力を入れている。

・基礎学力の保障

毎日の漢字の学習
よむよむワークシートで読解力をつける。

・学習習慣の確立

毎日、学年×10分+10分間は机に向かうように習慣付ける。
ドリルパークの活用。
個別に声をかける。(休み時間に補習。)

・AB層の育成

漢字は、反復練習を行うようにする。
本に興味・関心をもってもらうため、お話しバンビを月2回以上行ったり、低学年では担任が読み聞かせをする場面を多く設けたりするようにした。